

日本アフリカ学会第60回学術大会プログラム（1日目: 2023年5月 13日 土曜日）

	A会場：Room 2015	B会場：Room 4014	C会場：Room 4024	D会場：渚ホール
9:00	受付			
10:00	座長：竹ノ下祐二	座長：竹村景子	座長：溝辺泰雄	フォーラム1：ダウンサイドリスクを克服する レジリエンスと実践知の探究
	<b>A-1：生駒さや</b> （京都大学大学院） タンザニアの半乾燥地域において在来樹と外来樹の混交林をつくる実践的研究	<b>B-1：梶茂樹</b> （京都産業大学） 同じ正書法でいいの、チガ語とアンコレ語？	<b>C-1：落合雄彦</b> （龍谷大学） 植民地期のガンビアからシエラレオネへの精神病患者の移送—1930年代を中心にして—	<b>D-1：華井和代</b> （東京大学） COVID-19政策におけるリスクトレードオフ
10:15	<b>A-2：伊谷樹一 ほか</b> （京都大学 ほか） タンザニア南部・ルヴマ州の山地でムココロンビとよばれているタケのルーツを探る	<b>B-2：Kazuhiro Kawachi</b> （慶應義塾大学） Grammaticalization of deictic-directional verbs into prior associated motion proclitics in Kupsapiiny: : An investigation from a typological perspective	<b>C-2：澤田望</b> （駒澤大学） 黎明期ナイジェリア新聞の経時的变化—計量テキスト分析の試み—	<b>D-2：Otchia, Christian S.</b> （Nagoya University） Risk Perceptions of COVID-19 in Africa: Belief, Values, and Personality
10:30	<b>A-3：五百部裕 坂巻哲也</b> （椋山女学園大学 ほか） 野生ボノボの狩猟・肉食行動	<b>B-3：木村香純</b> （京都大学大学院） 20世紀前半におけるキクユの民俗語彙「翻訳」の検討—「ンゴマ」概念を事例として—	<b>C-3：楠和樹</b> （東京大学大学院） ケニアにおける牛の品種改良の歴史と記憶—マサイの事例—	<b>D-3：Kinyua, Laban Kithinji</b> （Sophia University & Tokyo University of Foreign Studies） The COVID-19 Disruptions in Kenya's Higher Education: Closure, Fatigue, and Paths
10:45	<b>A-4：大坂桃子</b> （京都大学大学院） ガボン共和国ロベ国立公園周辺地域における「村利用ゾウ」の生態	<b>B-4：池邊智基</b> （東京大学／日本学術振興会） 包摂と排除のウォロフ語リテラシー運動—現代セネガルにおける言語ナショナリズム—	<b>C-4：ふくだべろ</b> （立命館大学大学院） コンゴ盆地東部の忘れられたビグミー系（元）狩猟採集民トゥワに関する歴史的考察	<b>D-4：Muchetu, RG et al.</b> （Sam Moyo African Institute for Agrarian Studies） Farmer's perception of the effects of COVID-19 on agricultural markets and livelihoods in Zimbabwe
11:00	<b>A-5：換気タイム</b>	<b>B-5：換気タイム</b>	<b>C-5：換気タイム</b>	<b>D-5：換気タイム</b>

11:15	<b>座長：出町一恵</b> <b>A-6：高村（井上）満衣（京都大学大学院）</b> タンザニアにおける小学校卒業試験不合格者の 選択肢—キゴマ州の事例—	<b>座長：高根務</b> <b>B-6：牛久晴香（北海学園大学）</b> コロナ禍におけるガーナの輸出向け手工芸品生 産	<b>座長：目黒紀夫</b> <b>C-6：阪本拓人（東京大学大学院）</b> ニアメのフルベ—都市で生きる牧民の調査—	<b>フォーラム2：アフリカンビーズの過去と現在</b> <b>D-6：鈴木英明（国立民族学博物館）</b> 19世紀アフリカ大陸東部のビーズ交易 —ベルギー王立中央アフリカ博物館所蔵資料を もとに—
11:30	<b>A-7：朴聖恩（京都大学）</b> 技能訓練が社会的遺児の職業観・自己認識に及 ぼす影響—ウガンダの事例から—	<b>B-7：上田元 マテウス・キオコ・カウティ （一橋大学大学院 ほか）</b> 木材商調査からみたケニア南部木材流通の実態	<b>C-7：杉岡恭介（京都大学大学院）</b> ケニア沿岸部における少数民族ワアタの現状— ゾウの狩猟と保全のはざままで—	<b>D-7：中村香子（東洋大学）</b> ケニアの牧畜社会におけるガラスビーズの利 用—サンプルとポコットの首飾りを事例に—
11:45	<b>A-8：松本愛果（京都大学）</b> 職業教育と労働市場—ケニアの首都ナイロビに 焦点を当てて—	<b>B-8：久保田ちひろ（京都大学）</b> ケニアにおける契約農業をめぐる農家グルー プの動態	<b>C-8：湖中真哉（静岡県立大学）</b> 環境と平和のために森から退出せよ？—ケニア 中北部サンプル県キリシア丘陵の事例—	<b>D-8：池谷和信（国立民族学博物館）</b> ナイジェリアの都市におけるビーズ製作につい て
12:00	<b>A-9：日下部美佳（京都大学大学院）</b> アフリカで障害者が働くということ—ザンビ ア・ルサカにおける技能訓練と就労支援の事例 から考える—	<b>B-9：入谷聡子（東洋大学）</b> エチオピアにおける農道整備の変遷と農村生活 —2022年度道路機能分類の改訂と開発計画—	<b>C-9：八塚春名（津田塾大学）</b> タンザニア・ドドマ州におけるダムの建設計画 に伴う住民の移住と農地の移転	<b>D-9：懇談室</b>
12:15	<b>懇談室</b>	<b>懇談室</b>	<b>評議員会</b>	<b>懇談室</b>
13:45	<b>座長：高橋基樹</b> <b>A-10：阿久津昌三（信州大学）</b> 大統領の戦略—特に、Kwame Nkrumahの「積 極行動」の事例を中心として—	<b>座長：佐藤靖明</b> <b>B-10：石川博樹（東京外国語大学）</b> エチオピアにおけるインジェラの調理技法の確 立時期	<b>C-10：換気タイム</b> <b>座長：山田肖子</b>	<b>フォーラム3：西アフリカのライシテ研究の可 能性と課題</b> <b>D-10：清水貴夫（京都精華大学）</b> 西アフリカのライシテ研究の射程
14:00	<b>A-11：味志優（東京大学大学院）</b> 現代アフリカにおけるクライエンテリズムと票 の売買を巡る議論に関して	<b>B-11：藤本武（富山大学）</b> 食を通じた国民意識の形成—インジェラをめぐ るエチオピア少数民族の事例—	<b>C-11：Frimpong Andrew Charles（宇都宮 大学大学院）</b> 根をたどる—ガーナにおける技術教育教師のた めの教師養成の歴史—	<b>D-11：伊東未来（西南学院大学）</b> マリにおける家族法改正をめぐる議論とライシ テ

14:15	<b>A-12：藤井広重（宇都宮大学）</b> ケニア2010年憲法の改正をめぐる争点—再燃する「架け橋イニシアティブ（BBI）」の行方—	<b>B-12：伊藤紀子 丸山優樹（拓殖大学 ほか）</b> ケニアにおける食料消費の変化—ムエアとナイロビの調査から—	<b>C-12：Fanantenana Rianasoa Andriariniaina（大阪大学）</b> <b>Parental Involvement in Public High School Students' Career Planning in Central Madagascar</b>	<b>D-12：和崎春日（京都精華大学）</b> バムン王国におけるライシテと宗教性—和崎春日調査と盛恵子・弘仁調査をつきあわせて—
14:30	<b>A-13：懇談室</b>	<b>B-13：佐川徹（慶應義塾大学）</b> 「ソフトでライトな」時代の食と健康—ガーナ沿岸部における食生活とその変化—	<b>C-13：青木恒憲（長崎大学）</b> 仏語圏アフリカ諸国の保健人材を対象とした遠隔国際研修の経験	<b>D-13：ウスビ・サコ（京都精華大学）</b> アフリカの旧フランス植民地におけるライシテと宗教性の関係を探る—マリとマダガスカル事例研究から—
14:45	<b>A-14：懇談室</b>	<b>B-14：中尾仁美（京都大学大学院）</b> タンザニア地方部の食生活におけるキャッサバ利用の多面性—キゴマ州の事例—	<b>C-14：安部麻矢（大阪大学）</b> コロナ禍での多言語自学習支援施設における外国語学習支援—スワヒリ語の場合—	<b>D-14：阿毛香絵（京都大学）</b> 『教団共和国 セネガル』を再考する—アフリカ社会主義からネオリベラリズムとイスラームポピュリズムへの60年
15:00				

ポスター発表 コアタイム

	P会場：Room 4018	P会場：Room 4019	P会場：Room 4020	P会場：Room 4021
15:00	<b>P-1：新川まや（京都大学大学院）</b> ウシ食肉流通と「市」の発生—北カメルーン都市ンガウンデレを事例として—	<b>P-3：勝俣誠 岩崎有一（明治学院大学ほか）</b> タコと西サハラ—SDGsから考察した資源輸入の調査報告—	<b>P-5：阪本公美子ほか（宇都宮大学ほか）</b> タンザニア南東部内陸・海岸沿いにおける子どもの野生食物摂取と認識—成人との比較と絵的分析から—	<b>P-7：土屋陽子ほか（電力中央研究所）</b> 国際援助による太陽光発電（PV）システム導入の実態調査—タンザニア農村部における事例—
16:00	<b>P-2：吉田昌夫（アジア経済研究所）</b> タンザニア北東部における住民移住の歴史と民族混合村落の形成	<b>P-4：前田夢子（京都大学大学院）</b> グラフィティをめぐるコミュニケーション—セネガルの首都ダカールを事例に—	<b>P-6：目黒紀夫（広島市立大学）</b> 「スポーツを通じた開発と平和」の可能性—マダガスカル青少年スポーツ協会に関する予備的考察—	<b>P-8：西崎伸子（芸術文化観光専門職大学）</b> エチオピア西南部農村社会におけるオングリッドの選択

16:15 17:30	<b>D会場：渚ホール 総会・研究奨励賞授賞式</b>
----------------	-----------------------------

日本アフリカ学会第60回学術大会プログラム（2日目: 2023年5月14日 日曜日）

	A会場：Room 2015	B会場：Room 4014	C会場：Room 4024	D会場：渚ホール
9:00	受付			
9:15	座長：杉木明子	座長：松波康男	座長：黒崎龍悟	フォーラム4：アフリカの農と農村再考
	<b>A-15：有井晴香（北海道教育大学）</b> エチオピア西南部における子どもの世帯間移	<b>B-15：田中正隆（大谷大学）</b> ベナンにおける「不満の場」のゆくえ	<b>C-15：John Ngoy KALENGA（法政大学）</b> The economic impacts of mining industries in the central African Copperbelt: case study of Zambia and the Democratic Republic of Congo from 1927-2015	<b>D-15：鶴田格（近畿大学）</b> アフリカ農業・農村の非アグリリアンの性格
9:30	<b>A-16：谷口京子（広島大学）</b> マラウイのコミュニティ・チャイルドケア・センターの設立経緯と拡充	<b>B-16：村津蘭（東京外国語大学）</b> SNSを通じた呪術・治療の知識流通の変容—ベナンの薬草師・呪術師の実践を事例として—	<b>C-16：Yanyin ZI（立教大学）</b> A Re-emergence of the “Race to the Bottom”? Insights from a Chinese Manufacturing Business in South Africa	<b>D-16：足達太郎（東京農業大学）</b> アフリカ農業の環境史的概観—遊動型農業と定住型農業—
9:45	<b>A-17：細井友裕（東京大学）</b> 南アフリカ共和国の公共財政管理制度と行政	<b>B-17：平山草太（京都大学）</b> カメルーン・ヤウンデのイスラーム書店—在庫調査の結果を中心に—	<b>C-17：西浦昭雄（創価大学）</b> 南アフリカ小規模食品加工企業の存続と事業拡大	<b>D-17：小松かおり（北海学園大学）</b> アフリカの農における移動性とエクステンシブネス
10:00	<b>A-18：松原優華（東京大学大学院）</b> シエラレオネ紛争からみる和平合意履行による紛争終結の条件—RUFの組織変化と和平合意履行可否の関係—	<b>B-18：盛恵子（京都大学）</b> セネガル、ティジャーニーヤ・イブラヒミーヤにおける女性指導者の活動とその背景—ダカール市ワカム行政区の事例—	<b>C-18：井上直美（東京外国語大学大学院）</b> アフリカにおける企業と人権の限界とデジタル技術の可能性の検討—ケニアの小農の事例から—	<b>D-18：坂梨健太（京都大学）</b> 熱帯アフリカの多生業—農学の批判的検討にむけて—
10:15	<b>A-19：平野雄太（京都大学）</b> ポール・ムイテの思想と行動—現代ケニアにおける「ポリティカル・トライバリズム」超克の試み—	<b>B-19：懇談室</b>	<b>C-19：懇談室</b>	<b>D-19：泉直亮（弘前大学）</b> 富の蓄積と再生産—東アフリカ農牧社会における財と家族—
10:30	<b>A-20：換気タイム</b>	<b>B-20：換気タイム</b>	<b>C-20：換気タイム</b>	<b>D-20：換気タイム</b>

10:45	<b>座長：松平勇二</b> <b>A-21：小林直明（国立民族学博物館）</b> ビデオ会議システムを利用したリモート調査の可能性について—デジタルストーリーテリング・ワークショップの実践例—	<b>座長：斎藤文彦</b> <b>B-21：森尾貴広（筑波大学）</b> 日本型マンガ・アニメエコシステムのアフリカへの定着の可能性	<b>座長：中村亮</b> <b>C-21：増田初希（京都大学大学院）</b> マダガスカル熱帯雨林における住民によるコミュニティフォレスト実践—生業としての自然保護の可能性—	<b>フォーラム5：子どもをめぐるコミュニケーションと健康</b> <b>D-21：高田明（京都大学大学院）</b> 南部アフリカのサンにおけるジムナスティックへの4つのアプローチ
11:00	<b>A-22：飯田卓（国立民族学博物館）</b> アフリカナイジング・ミュージアム—博物館はたんなる展示施設ではない—	<b>B-22：佐井旭 ほか（北海道大学）</b> サニテーションと健康—ザンビア首都ルサカのごみ集積場を事例に—	<b>C-22：松浦直毅 仲澤伸子（椋山女学園大学）</b> タンザニア・マハレ山塊国立公園周辺地域における住民生活の動態—インフラ整備、自然災害、コロナ禍の影響—	<b>D-22：野口朋恵（京都大学大学院）</b> セントラル・カラハリ・サンの子どもの社会における近代教育と健康—ノンフォーマル教育の事例から—
11:15	<b>A-23：網中昭世（アジア経済研究所）</b> 文化と政治の緊張関係—モザンビーク・南アフリカを越境するショピの民族芸能ティンビラー	<b>B-23：平尾莉夏 ほか（京都大学 ほか）</b> ベナン国ジュグー市の家庭における廃棄物管理と資源利用の実践	<b>C-23：高村伸吾（立命館大学/日本学術振興会）</b> 彼岸と此岸を架橋する—コンゴ・橋再建プロジェクトにおけるオートエスノグラフィー—	<b>D-23：林耕次（京都大学大学院）</b> バカ・ピグミーの子どもの衛生感覚—水くみ・トイレ・調理の様子から—
11:30	<b>座長：小川さやか</b> <b>A-24：鈴木裕之（国士舘大学）</b> アビジャンで歌うのはグリオだけではない—変容するマンデの「誉め歌」の実践—	<b>座長：池野旬</b> <b>B-24：原将也（神戸大学）</b> ザンビアにおける使用済みプラスチックの流通	<b>フォーラム6：ジャン＝フランソワ・バイヤール著『アフリカにおける国家』の現代的意義</b> <b>C-24：加茂省三（名城大学）</b> ジャン＝フランソワ・バイヤールによるアフリカ政治学	<b>D-24：山内太郎（北海道大学）</b> 狩猟採集民の子どもの活動—半定住集落と森—
11:45	<b>A-25：関広尚世 ほか（京都市埋蔵文化財研究所 ほか）</b> スーダン共和国におけるリビングヘリテージの研究—ハリファ・ハウスを中心として—	<b>B-25：大山修一（京都大学大学院）</b> アフリカの脱プラスチック政策とその実効性	<b>C-25：戸田真紀子（京都女子大学）</b> 『アフリカにおける国家』とナイジェリア	<b>D-25：ニャンベ シコポ（北海道大学）</b> ザンビアのルサカ郊外におけるWASH（水・トイレ・衛生）に関する子どもたちの絵とストーリー—
12:00	<b>A-26：森昭子（東京都立大学）</b> ガーナ南部における看板絵師の芸術実践—「オールマイティゴッド看板工房」での看板絵の制作工程を事例に—	<b>B-26：桐越仁美（国士舘大学）</b> 「プラスチック川」を取り巻く実情—ガーナのプラスチックに関する取り組みと実態—	<b>C-26：遠藤貢（東京大学大学院）</b> 『アフリカにおける国家』と国際関係—extraversion（外向）再考—	<b>D-26：懇談室</b>
12:15				

13:30  
16:10

**D会場：渚ホール 公開シンポジウム：将来世代からアフリカ社会の未来を考える**